

就職氷河期世代の就業等の 実態や意識に関する調査(概要)

2024年12月
内閣府

就職氷河期世代の就業等の実態や意識に関する調査（概要）

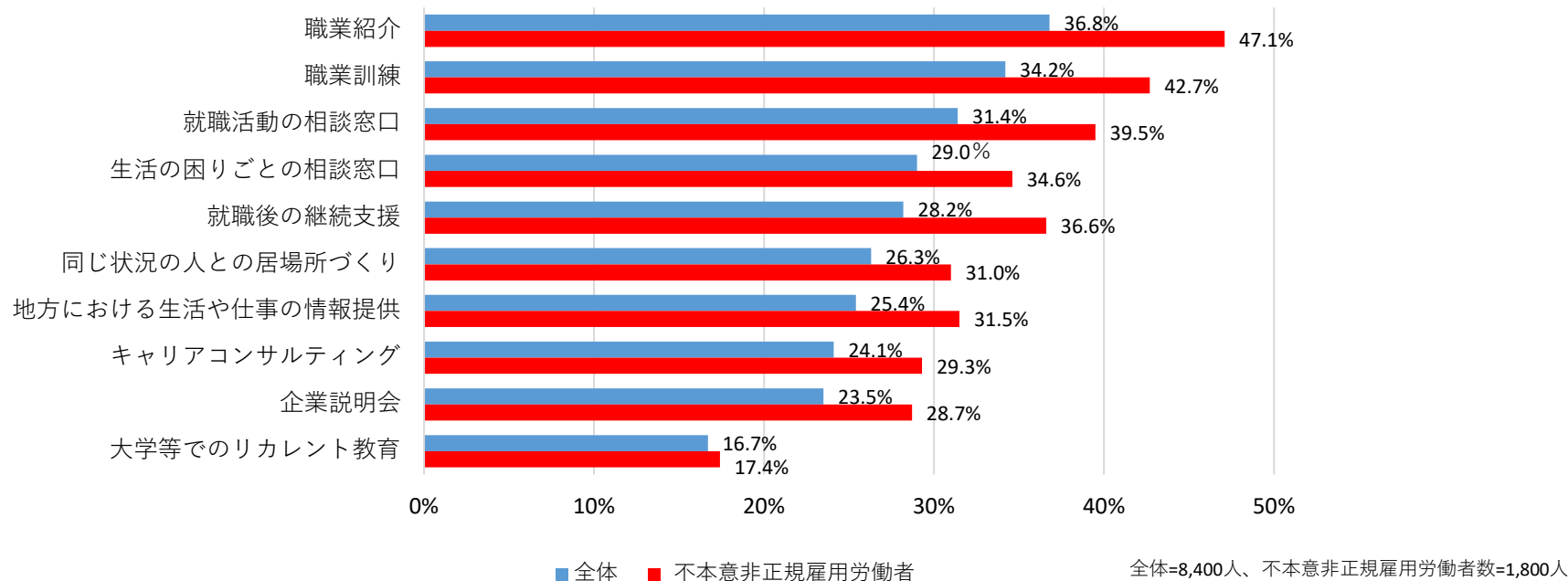
調査の概要

○調査対象：25歳～54歳までの男女8,400名

○調査方法：インターネット調査（2024年3月とりまとめ）

主な調査結果

○行政支援施策に対するニーズ



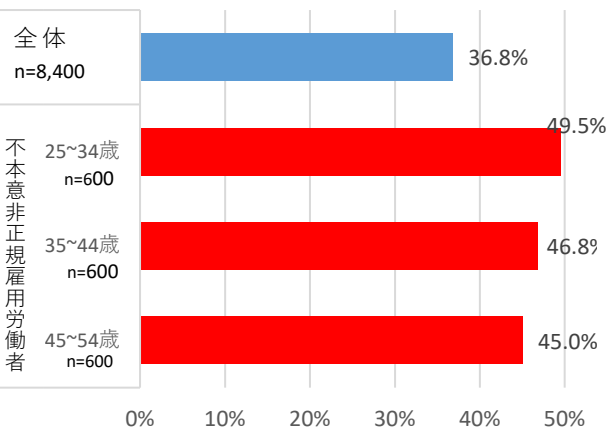
- ・「職業紹介」「職業訓練」「就職活動の相談窓口」「生活の困りごとの相談窓口」「就職後の継続支援」のニーズが高い。
- ・行政支援施策に対するニーズは、全体と比較し、不本意非正規雇用労働者の方が全般に高い。

就職氷河期世代の就業等の実態や意識に関する調査（概要）

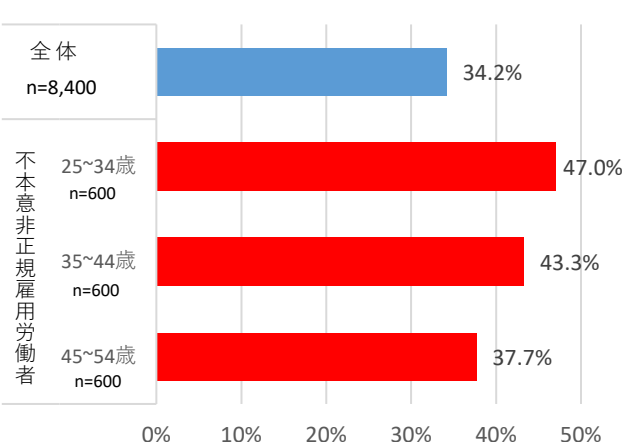
主な調査結果

○年代別の行政支援施策へのニーズ

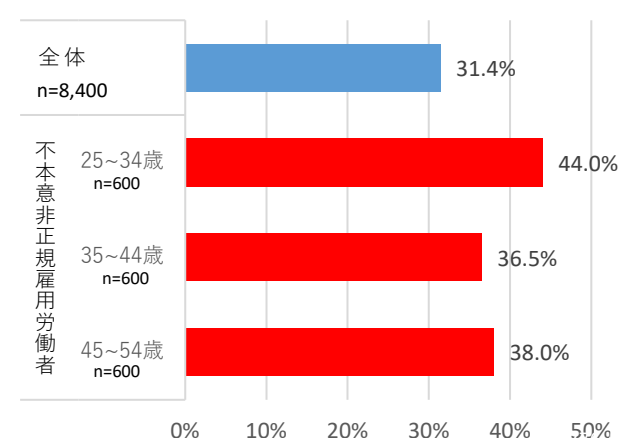
職業紹介



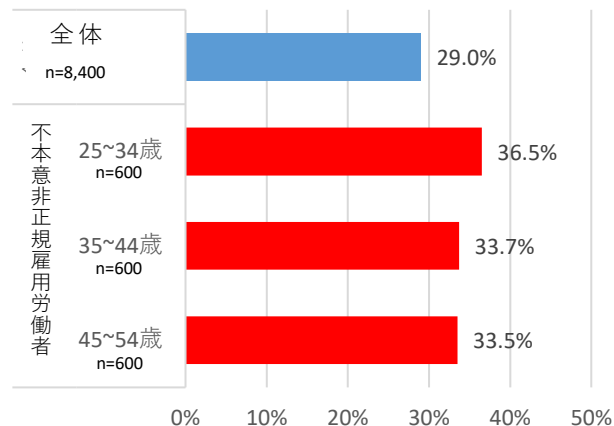
職業訓練



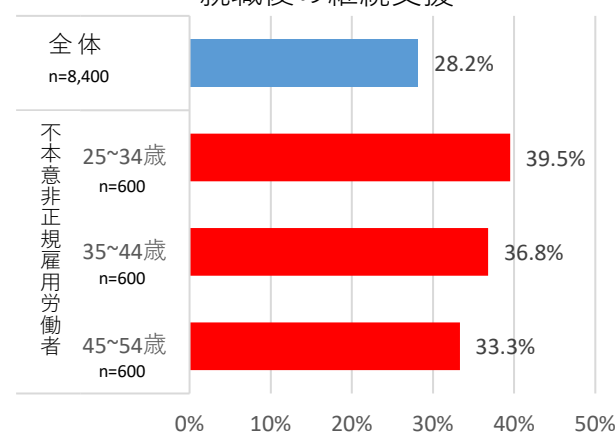
就職活動の相談窓口



生活の困りごとの相談窓口



就職後の継続支援

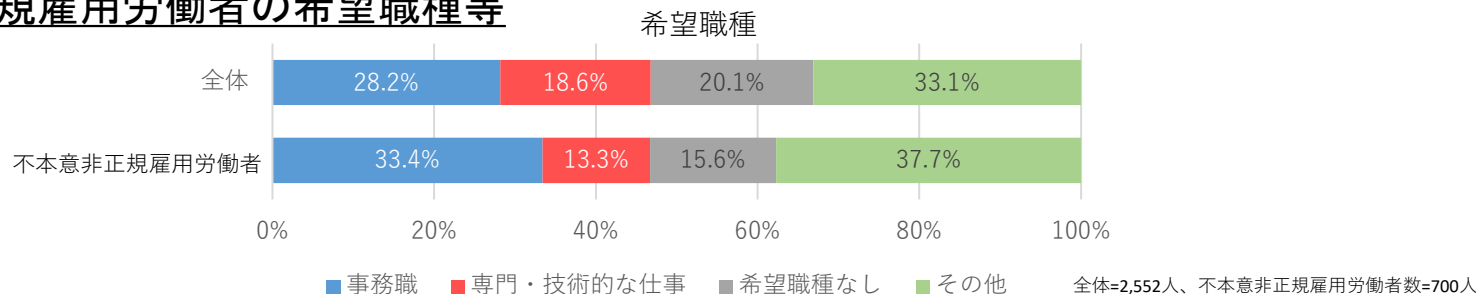


- 年代別では、職業紹介、職業訓練、就職活動の相談窓口、生活の困りごとの相談窓口、就職後の継続支援のいずれも、若年層（25～34歳）のニーズが高い傾向にある。

就職氷河期世代の就業等の実態や意識に関する調査（概要）

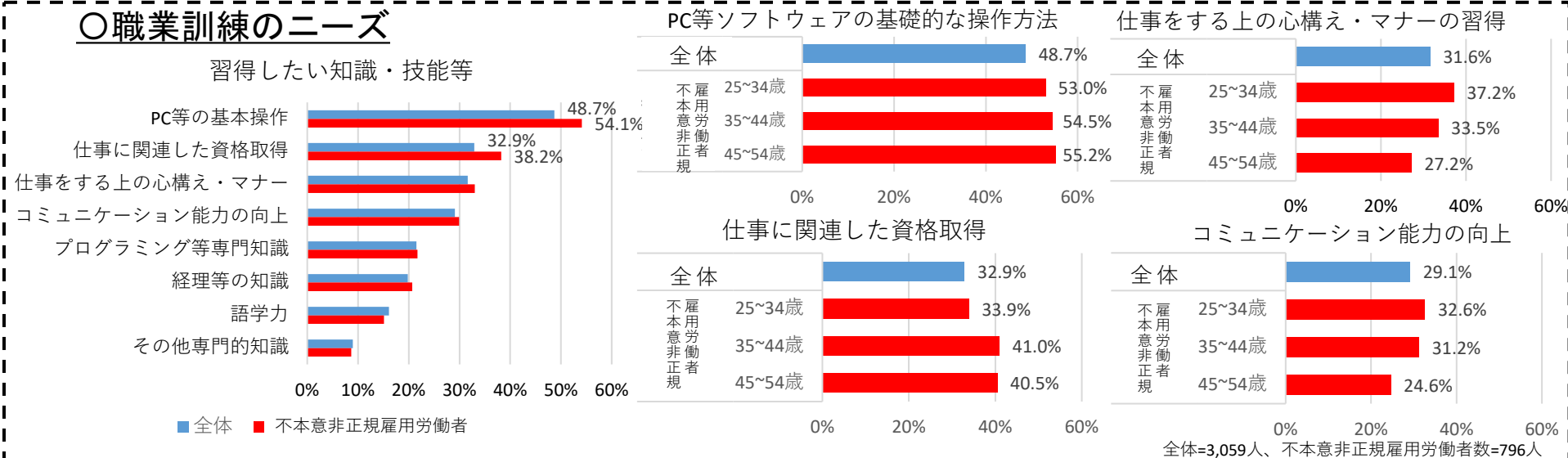
主な調査結果

○不本意非正規雇用労働者の希望職種等



- ・就職・転職に際して希望する職種について、不本意非正規雇用労働者は、事務職を希望する割合がやや高く、専門・技術的な仕事を希望する割合がやや低い。

○職業訓練のニーズ



- ・不本意非正規雇用労働者の職業訓練のニーズは、PC等の基本操作はどの年代でもニーズが高く、35~45歳、45~54歳は仕事に関連した資格取得へのニーズが高い。
若年層（25~34歳）では、仕事をする上での心構え・マナー、コミュニケーション能力向上のニーズが高い。